

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
京都ホテル観光ブライダル専門学校		平成2年6月11日		田中 幹人		〒 604-8006 (住所) 京都市中京区河原町二条下ル下丸屋町396番地の3 (電話) 075-241-0191		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人大和学園		昭和29年5月28日		理事長 田中 誠二		〒 604-8006 (住所) 京都市中京区河原町二条下ル下丸屋町396番地の3 (電話) 075-241-0191		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
商業実務	商業実務専門課程		旅行学科		平成6年文部科学大臣告示 第84号	-	平成26(2014)年度	
学科の目的		教育基本法及び学校教育法に基づき、旅行・観光分野の教育を施し、以下に示す時代の養成に応え得る専門知識及び技能と態度・姿勢を習得させるとともに、教養豊かな職業人の育成を図ることを目的とする。 1. 国際文化観光都市・京都で豊かな感性を学び、人を感動させ、幸せを与えることができるホスピタリティマインド(おもてなしの心)を身につけている。 2. ホスピタリティ業界で活躍し続けるために、リーダーシップを発揮し、目標に向かってやり遂げる力を身につけている。 3. 相手の意図をくみ取り、論理的に分かりやすく表現するコミュニケーション能力を身につけている。 4. グローバル社会や環境の変化に柔軟に対応し、ICTの活用やDXを推進することで企業利益につなげる創造力を身につけている。 5. 専門知識や技術、取得した資格を企業や業界の成長・発展に貢献する実践力を身につけている。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率 等)		◆取得可能な資格:国内旅行業取扱管理者、国内旅程管理者、サービス接客検定など ◆中途退学者:5名(中退率13.9%)						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,710 単位時間 単位	540 単位時間 単位	1,050 単位時間 単位	120 単位時間 単位	単位時間 単位
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		
70 人		18 人		3 人		17 %		
就職等の状況		■卒業者数(C) : 18 人 ■就職希望者数(D) : 17 人 ■就職者数(E) : 17 人 ■地元就職者数(F) : 4 人 ■就職率(E/D) : 100 % ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) 24 % ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) 94 % ■進学者数 0 人 ■その他 1名就職希望せず。 (令和 5 年度卒業者に關する令和4年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 農協観光、山一サービス、大阪モノレールサービス、株式会社TEI、西日本旅客鉄道株式会社、近江トラベル株式会社、WILLER TRAINS株式会社、読売旅行、株式会社加治屋自動車、東海ツーリスト株式会社、株式会社トップ・スタッフ、T-LIFEホールディングス株式会社						
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL						
当該学科のホームページURL		https://www.kyoto-carriere.ac.jp/dpt_travel/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		(A:単位時間による算定) 総授業時数 1,710 単位時間 うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 60 単位時間 うち企業等と連携した演習の授業時数 150 単位時間 うち必修授業時数 1,710 単位時間 うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 60 単位時間 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 150 単位時間 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) 60 単位時間 (B:単位数による算定) 総授業時数 単位 うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 単位 うち企業等と連携した演習の授業時数 単位 うち必修授業時数 単位 うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 単位 うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 単位 (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) 単位						
教員の属性(専任教員について記入)		① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号) 2 人 ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) 18 人 ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人 ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) 0 人 ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) 1 人 計 21 人 上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数 15 人						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
我が国のホスピタリティ産業の次代を担うホテル、ブライダル及び旅行の各スペシャリスト養成教育の質的向上に貢献するため、教育課程編成委員会の委員として産業界、企業等の役職員を選出し、企業等の様々な意見や要請などを十分に活かしながら、実践的かつ専門的そして、先駆的な職業教育モデルを構築し、中核的専門人材の養成教育を展開する。また、学生のインターンシップやアルバイト、就業先への定期的な訪問やセミナー、講座などによる招聘時に人事や営業担当の方々に対してヒアリングを行い、各授業科目の開設や内容などの改善・工夫などに活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会は、学則第25条で示すとおり、教職員および企業等の役員または職員その他必要な委員を持って構成している。委員会では、教育する分野における人材の専門性に関する動向を十分に把握・分析し、関係業界の要請等を活かした実践的かつ専門的な職業教育を実践するために、教育課程のカリキュラムの編成、実施及び改善に関する事項について提言し、その内容は、簡潔かつ明瞭に取りまとめ、本校の関係教職員で構成させるカリキュラム検討委員会に報告する。そして、最終的には、校長及び専任の教員をもって構成される教員会の審議を経て校長が決定する。

令和6年8月1日現在			
名 前	所 属	任期	種別
中野 裕行	一般社団法人日本旅行業協会 関西事務局 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	①
田中 中秋	株式会社JTBコミュニケーションデザイン 総合企画部 西日本営業統括 大阪・関西万博推進担当 兼 大阪IR推進担当	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	③
田中 幹人	京都ホテル観光ブライダル専門学校 校長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
作岡 友樹	京都ホテル観光ブライダル専門学校 校長代行	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
奥山 勉	京都ホテル観光ブライダル専門学校 副校長・ホテル学科 学科長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
高岡 良明	京都ホテル観光ブライダル専門学校 副校長・広報渉外部 部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
高尾 勝義	京都ホテル観光ブライダル専門学校 旅行学科 学科長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
曾根 圭子	京都ホテル観光ブライダル専門学校 旅行学科 教員	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
辻 智子	京都ホテル観光ブライダル専門学校 就職部 部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
楠井 秀和	京都ホテル観光ブライダル専門学校 教務部 部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—
太田 敦久	京都ホテル観光ブライダル専門学校 教務部	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (6月、9月)
(開催日時(実績))
第1回 令和6年6月6日(木) 15:30～17:00
第2回 令和6年9月11日(水) 13:00～14:15 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況(昨年の委員会から)

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

2回の教育課程編成委員会にていただいた提言を元に、本校におけるカリキュラム検討委員会、教員会にて審議し、取り入れたものは以下のとおり。

- コミュニケーション能力やおもてなしの心は必要不可欠⇒マナー系授業やコミュニケーション系授業で指導の機会を増やす。
- SNSにおける発信の注意点や危険性を学ぶ必要がある⇒「ICTソリューション」や「観光デジタルツール演習」の中で指導していく。
- 英語圏でないインバウンド旅行者とのコミュニケーションにも取り組んでみてはどうか⇒「インバウンド・ビジネス論」で日本語学校の留学生を対象にツアーを募集しており、英語圏外の留学生の参加を促していく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学生が業界や職種について理解し、一人前の職業人となるために、現場経験が豊富でキャリアモデルとして学生の手本となるような講師を紹介いただける企業と連携を行っている。また、派遣いただいた講師には本校の施設設備を活用しながら、業界の最先端の動向を指導いただくとともに、担当科目において業界で必要とされる最低限の知識・技能を身につけたか、学修成果の評価を行っている企業を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

一般教養科目、専門教養科目、コミュニケーション科目、語学科目のそれぞれの科目において、各企業から講師を招き、理論とともに実習・演習を交えて、目指すべき職業に必要とされる高度な実践力と豊かな創造力を養う授業展開を行っている。学修成果については、それぞれの科目において、学習態度、提出課題、出席などとともに試験を行い、一人ひとり成績評価している。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
キャリアデザインⅠ	キャリアをデザインするとは、自ら主体的に、自分の将来について行動指針を考えていくことです。単に職種や業界を選ぶのではなく、価値観やライフスタイルまで含め、自分らしく働くためにはどう選択・決定していくのか、自らの自己理解、適性を確認しながら、将来につなげるきっかけをつかみましょう。	J&Jヒューマンソリューションズ クラウドディアコスチュームサービス 橋立ベイホテル HOTEL THE MITSUI KYOTO
キャリアデザインⅡ	自身の描いたキャリアを実現する力を身に付けるため、就職活動のプロセスやポイントを理解し、各セミナーにおいて、企業がどのような人材を求めているか、自分がこれから何をすれば良いかについて理解します。	京都新卒応援ハローワーク 京都ジョブパーク JR東海ツアーズ
観光マーケティング演習	現在、国内だけではなく世界中でも競争力が問われる時代に、業績を上げている企業や商品には、やはり顧客志向が最優先されており、マーケティングを重視しています。この授業では、マーケティングの基礎から様々な戦略など、また旅行業界におけるマーケティングとは何かを理解していきます。	ふくいヒトモノデザイン(株)
地域コミュニティ活性化演習Ⅰ	市町村やDMO、スタートアップ企業様等の各スピーカーから、それぞれの地域活性化の取り組みや課題について聴講し、その後課題に対する対応策を考え提案します。	宮津市役所 (株)foundingbadse
インターンシップ	旅行の事業所で専門的な業務や実際に行われる業務を体験することで、将来目指すべき職業を具体的にイメージし、憧れだけではない正しい職業観を身に付けるとともに、社会人として必要な礼儀や振る舞いを身に付けることを目的とします。	京福電気鉄道 せとうちクルーズ 東武トップツアーズ JTB 日本旅行

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 FD(ファカルティ・ディベロップメント)による職能開発や人間的魅力の向上を図り、その成果をクライアントに還元するための研修を実施することを目的とし、集合研修、派遣研修、OJT研修、通信教育を受講する機会を設けており、コンプライアンスマニュアルの「研修規程」に定めている。 集合研修は、対象教職員を一堂に集め、内部または企業等からの外部講師により、その能力向上のために実施するものであり、「育成計画研修」「職務別研修」「リーダー研修」「人権研修」の4つの区分に基づいた研修計画を立て、教職員一人ひとりの能力の向上が学校全体の力になるよう取り組んでいる。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: アフターコロナ時代の学生募集考察	連携企業等: 京都府専修学校各種学校協会	
期間: 2023年7月20日(木)	対象: 職員1名	
内容: リアル接点の重要性和SNS,Webとのハイブリッド広報について		
研修名: 京都観光アカデミー課題解決セミナー	連携企業等: 京都府観光連盟	
期間: 2023年8月21日(月)	対象: 教員1名	
内容: 「人手不足解消!本質から学ぶ採用活動:観光業界の人材確保セミナー」		
研修名: 「第38回日本観光研究学会全国大会」	連携企業等: 日本観光研究学会	
期間: 2023年12月9日(土)~10日(日)	対象: 教員1名	
内容: 執筆した論文「オーバーツーリズムの対応策に関する一考察ー京都市を事例としてー」の学会発表		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 全国専修学校各種学校総連合会近畿ブロック協議会兵庫大会	連携企業等: 全国専修学校各種学校協会	
期間: 2023年7月24日(月)	対象: 教員1名	
内容: 各府県からの活動事例発表、パネルディスカッションなど		
研修名: 情報化推進研修	連携企業等: 大和学園(学内研修)	
期間: 2023年8月31日(木)	対象: 教員7名、職員4名	
内容: ChatGPTに触れてみよう		
研修名: グローバル化推進研修	連携企業等: 大和学園(学内研修)	
期間: 2023年8月28日(月)	対象: 教員3名、職員3名	
内容: 留学生受け入れ体制の充実に向けて		
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 就職指導研修	連携企業等: 大和学園(学内研修)	
期間: 2024年8月27日(火)	対象: 教員3名	
内容: キャリアコンサルティング実践		
研修名: ホスピタリティ・マネジメント研究会	連携企業等: ホスピタリティインダストリー研究所	
期間: 2024年11月	対象: 教員1名	
内容: 未定		
研修名: 第39回日本観光研究学会全国大会	連携企業等: 日本観光研究学会	
期間: 2024年12月7日(土)~8日(日)	対象: 教員1名	
内容: 未定		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 全国専修学校各種学校総連合会近畿ブロック協議会大阪大会	連携企業等: 全国専修学校各種学校協会	
期間: 2024年7月24日(水)	対象: 職員1名	
内容: 各府県からの活動事例発表、パネルディスカッションなど		
研修名: 教育の最前線	連携企業等: 大和学園(学内研修)	
期間: 2024年8月27日(火)	対象: 教員10名	
内容: 発達障害の学生への理解と支援		
研修名: グローバル化推進研修	連携企業等: 大和学園(学内研修)	
期間: 2024年8月28日(水)	対象: 教員3名、職員3名	
内容: 留学生の現状とストレス要因の理解と対策		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者として、企業等の役職員および卒業生で組織される学校関係者評価委員会を設置している。この委員会は、本校が経営の現状と課題について適切に把握し、教育活動及びその他学校運営の改善を的確に行おうとしているかについて、客観的に評価することを目的としている。評価結果やいただいた意見に対する改善方法について、今後の教育活動及びその他学校運営に活かしていくとともに、ホームページに掲載し広く社会に公表することでより多くのステークホルダーの理解促進や提携協力につなげ、さらなる学校運営の改善を図っていく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・学校の理念・目的・育人人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2)学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する規程等は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援	・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・ 学生相談に関する体制は整備されているか ・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか ・ 学生の生活環境への支援は行われているか ・ 保護者と適切に連携しているか ・ 卒業生への支援体制はあるか ・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・ 防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	・ 学生募集活動は、適正に行われているか ・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・ 学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・ 財務について会計監査が適正に行われているか ・ 財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・ 自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	・ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・ 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・ 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況(昨年の委員会から)

●「デジタル化の浸透」に向けて、学生に対するICT教育の対策について⇒「ICTソリューション」の科目でインターネットの活用方法や情報モラル、Word、Excelなどを活用できる力を身に付けさせる。

●同窓会員の交流、同窓会主催の研修や卒業後サポートの充実を図るべき⇒今後、同窓会定期総会などを通じて、検討していきたい。

●コロナ禍を経験した学生は上下関係を学ぶ機会を奪われてきた、その対策は⇒様々な授業の中で学生の意見を引き出し、発言のしやすい授業展開や学生指導をしていきたい。

●京都の学校であるからこそ、京都についてどれだけ知っているか、また、知ろうとするアクションを期待したい⇒「京都を遊ぶチームビルディング演習」の授業で学科横断型で実施し、京都の魅力をテーマにグループワークを行い、フィールドワークなども取り入れている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年8月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
麻生 周治	ヒルトン 西日本地区統括人事部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員
船橋 香菜	株式会社スタイルズ 営業統括本部 ヒューマンリソース室 室長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員
田中 中秋	株式会社JTBコミュニケーションデザイン 執行役員 エリアマネジメント部長 大阪・関西万博推進統括	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員
島崎 貢	京都ホテル観光ブライダル専門学校 同窓会 副会長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	卒業生
辻本 剛久	京都西山高等学校 教頭	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	有識者
今村 仁	京都両洋高等学校 学習進路指導統括部 第二学習センター長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	有識者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.kyoto-carriere.ac.jp/greeting/evaluation.html>

公表時期: 令和6年10月

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の業界関係者をはじめ、本校のステークホルダーである保護者、高校の教員、卒業生等に対し、透明性を持って説明責任を果たすためにホームページを通じて、教育活動や学校運営に関する情報を積極的に発信する。また、「教育事業そのもので社会に貢献していく」という考えを軸に取り組んできたCSV活動や行政・地域・企業との連携によるSDGs推進活動を中心に学園の概要とあわせて「ホスピタリティ・レポート」としてまとめ、ホームページに掲載する。さらに財務諸表や教職員データ等は「大和学園データ集」として詳細を公表する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	● 理念・ビジョン ● アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー ● 校長名、所在地、連絡先等 ● 学校の沿革
(2) 各学科等の教育	● 入学者数、収容定員、在学学生数 ● カリキュラム ● 卒業要件 ● 取得資格、取得を目指す資格・検定 ● 資格取得、検定合格等の実績 ● 卒業者数、卒業後の進路(主な就職先)
(3) 教職員	● 教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	● キャリア教育の取組状況 ● 実習・実技等の取組状況 ● 就職支援等の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	● 学校行事の取組状況 ● 課外活動(サークル活動等)
(6) 学生の生活支援	● 学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	● 学費、納入時期等 ● 奨学金等
(8) 学校の財務	● 資金収支計算書、収支収支計算書
(9) 学校評価	● 自己評価 ● 学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	● 留学生の受入状況 ● 留学生募集要項
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.kyoto-carriere.ac.jp/>

公表時期: 令和6年10月

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 旅行学科)													
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	
1	○		自己分析	自分自身の強みや能力を再発見し、就職活動を通じてアピールできる表現を見つけます。また、仕事をする目的を理解し、今後の就職活動にむけて必要な準備をします。	1・前	30		○			○		○
2	○		美しい所作演習	「ホスピタリティマインド」は、形として表現されてはじめて相手に伝わります。一人一人の持てる秘めた魅力を引き出しそれを表現できるよう様々な角度から指導いたします。	1・前	30		○			○		○
3	○		京都を遊ぶチームビルディング演習	入学間もないみなさんの、交流を生み出すきっかけづくりとしてのチームビルディングや、キャンパスを出て、町の動きの只中で学ぶ「フィールドワーク」を取り入れながら授業を進行します。毎回の授業はグループワーク、プレゼンテーションを中心にすすめます。	1・前	30		○			○	○	
4	○		ビジネスマナー演習	日本のビジネスシーンにおける習慣やマナーを身につけることで、職場での良好な人間関係を築くことができます。日本のコミュニケーションの特徴と、日本のビジネスシーンでの一般的なマナー、およびホテルや旅行、飲食、製菓業界での基本的なマナーを実践的に学びます。	1・前	30		○			○		○
5	○		プレゼンテーション演習Ⅰ	「自己分析」の講義内容と連携し、自己理解を深めながら、自分の個性やホスピタリティマインドに自信をもち、それを他者にわかりやすく伝える基本的な力を培います。	1・前	30		○			○		○
6	○		サービス接遇演習Ⅰ	ビジネスが成立するためには、お客さまが満足すること、お客さまに役立つ「価値」を提供する必要があります。そのために、お客さま対応の現場で、お客さまに対してどのような貢献ができるかを考え、実行するための「サービスマナー」を身につけます。	1・前	30		○			○		○
7	○		ICTソリューションⅠ	「ICT」とはInformation & Communication Technology（情報通信技術）のこと、この科目では社会生活で求められる情報活用能力を身につけます。情報を正しく判断する能力である「情報モラル」やインターネットを安心して利用するための「情報セキュリティ」に関する知識を習得します。	1・前	30		○			○		○
8	○		キャリアデザインⅠ	キャリアをデザインするとは、自ら主体的に、自分の将来について行動指針を考えていくことです。単に職種や業界を選ぶのではなく、価値観やライフスタイルまで含め、自分らしく働くためにはどう選択・決定していくのか、自らの自己理解、適性を確認しながら、将来につなげるきっかけをつかみましょう。	1・前	30		○			○	○	○
9	○		グループディスカッション演習	初対面でも自らコミュニケーションを図る積極性を養います。コミュニケーションワークやグループディスカッションを実施することで、緊張感を和らげ人前で発言することが楽しくなる実践力の向上を目指します。	1・前	30		○			○		○
10	○		ホスピタリティセミナー	分野や職種にかかわらず、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力のひとつ「課題対応能力」の醸成につなげます。	1・後	30		○			○	○	○
11	○		キャリアデザインⅡ	自身の描いたキャリアを実現する力を身に付けるため、就職活動のプロセスやポイントを理解し、各セミナーにおいて、企業がどのような人材を求めているか、自分がこれから何をすれば良いかについて理解します。	1・後	30		○			○	○	○
12	○		プレゼンテーション演習Ⅱ	効果的なプレゼンテーションを行うための基本知識と実践力を身に付けます。就職活動はもちろん、ビジネスワーカーに求められるプレゼンテーション技術と方法を習得し、自己PRをはじめとしたさまざまな質問に対して、自信をもって伝える力を養います。その他、企業さまへの電話演習も実践します。	1・後	30		○			○		○
13	○		サービス接遇演習Ⅱ	この授業では、前期の「サービスマナー演習Ⅰ」に続き、「真のサービスとは何か」を追求し、プラスαの接客スキルを身につけます。毎週のニュースチェックを習慣化し、時事問題に対する意識を高め、就職活動やお客さまとの会話で発揮できる力を養います。	1・後	30		○			○		○

14	○			ICTソリューションⅡ	社会生活で求められる I C T 活用能力をさらに身につけるために、この授業では文書作成、表計算の実習、プレゼンテーションの作成を行います。また、Webサイトやモバイルの情報をアプリケーションで活用する方法も紹介していきます。パソコンを使い、自分のやりたいことを形にする力を身につけます。	1・後	30			○			○			○		
15	○			国内管理者①法令	国内・総合旅行業務取扱管理者試験で出題される「旅行業法」について学びます。遵守しなければならない義務や難しい言葉等、授業を通じ、しっかりと学習します。	1・前	30			○			○			○		
16	○			国内管理者②約款	国内・総合旅行業務取扱管理者試験で出題される「約款」について学びます。お客様との間で取り交わされる「旅行業約款」「運送約款」「宿泊約款」を学習します。	1・前	30			○			○			○		
17	○			国内管理者③ J R 運賃料金	J R の営業規則や運賃・料金の計算方法を基礎から学んだり、団体乗車券や取扱方法、時刻表の見方なども学習します。授業後半から能力別クラス編成により授業をします。	1・前	30			○			○			○		
18	○			国内管理者④旅行実務	国内・総合旅行業務取扱管理者試験対策としてバスや航空などの約款について学習します。また、宿泊代金や貸切バス運賃、料金の計算など料金の算出を行います。	1・前	30			○			○			○		
19	○			国内管理者⑤観光地理	授業で使用するワークシートにしっかりと取り組み、国内旅行地理検定はもちろん、国家試験にも合格する実力を身につけます。	1・前	30			○			○			○		
20	○			接客英会話Ⅰ	外国のお客様との様々な場面を中心に、接客する側と接客される側の会話を学びます。また、ロールプレイを通して発話練習を行い、接客英会話を身につけます。	1・前	30				○		○				○	
21	○			観光産業論	旅行業の生い立ちや歴史から現状に至るまで、またその中でも旅行会社の分類や職種、商品、旅行業のこれからの将来像について、最新の旅行業界の現状から研究し理解を深めます。	1・前	30			○			○			○		
22	○			国内旅行業務取扱管理者対策Ⅰ	過去問題や模擬試験などを解き、苦手分野を克服し、合格できるように学習します。	1・後	30			○			○			○		
23	○			国内旅行業務取扱管理者対策Ⅱ	過去問題や模擬試験などを解き、苦手分野を克服し、合格できるように学習します。	1・後	30			○			○			○		
24	○			共創まちづくり演習	この授業では、様々な「共創まちづくり」の事例を調べ、その考え方を学んでいきます。また、農園での豆撒きや収穫を体験することで、京野菜の素晴らしさを知り、観光地「京都」の魅力を発信しどのように共創されているかを理解します。	1・後	30				○		○			○		○
25	○			ツアープランニング演習	この授業では、JR時刻表を用いて、公共の交通機関を利用した旅程を作成することから始め、その後旅程に沿ったJR運賃料金の計算もおこないます。	1・後	30				○		○			○		
26	○			旅行セールス演習	この授業では、主にパッケージツアー商品のセールスツールであるパンフレットの見方や旅行代金の算出方法について学び、そして旅行セールス実習室に設置してある実際のカウンターを使用して接客業務を繰り返し演習します。	1・後	30				○		○			○		
27	○			ツアーコンダクター演習	この授業では、添乗員として働く上で必須資格である「旅程管理主任者」取得に向けて添乗業務の基礎を学びます。業務の流れや周辺知識、何が求められる立場なのか等の理解を目指します。	1・後	30				○		○				○	
28	○			接客英会話Ⅱ	接客場面での会話だけではなく、外国のお客様に日本の文化等を紹介したり、さらに広い範囲でのコミュニケーション力を身につけることをテーマに授業を行います。	1・後	30				○		○				○	
29	○			ホテル概論	ホテルでの組織やセクションがどんな役割や業務を担っているのかを把握し、ホテル全体の概要を理解します。将来の幹部候補生としての知識を身につけていきます。	2・前	30			○			○			○		
30	○			ホテル・旅館業界研究	業界の現状とともにSDG s、地域との連携など、具体的なホテル企業の取り組みについての情報も得ることで、将来、ホテルや旅館で働くことを通じてできる社会に貢献についての知識を身につけます。	2・前	30			○			○			○		○
31	○			リーダーシップ実践	「リーダーシップ」とは、一人では実現できない目標やゴールを実現するため、他者に働きかけ、協力を仰ぎ、その実現を目指す力のことです。本講義ではコーチングスキルを通してリーダーシップを身につけ、これからの未来を担い、社会に貢献する人材を目指します。	2・前	30				○		○				○	
32	○			インバウンド総論	インバウンド・ツアーの最新の情報や、外国人の好み、日本人観光客との違いについて学んでいきます。将来、日本の主要産業になりうるインバウンドツアーの知識を深めていきます。	2・前	30			○			○			○		

33	○		観光マーケティング演習	現在、国内だけではなく世界中でも競争力が問われる時代に、業績を上げている企業や商品には、やはり顧客志向が最優先されており、マーケティングを重視しています。この授業では、マーケティングの基礎から様々な戦略など、また旅行業界におけるマーケティングとは何かを理解していきます。	2・前	30				○		○		○		○
34	○		ソーシャルマナー演習	一年次に学んだサービススキルの知識と実践スキルをさらに発展させ、異文化についての知識と多様性の理解も深めます。さらに、あらゆる方々に対して同じサービスをするためのマインドも学び、具体的に実践する力を身につけます。	2・前	30				○		○				○
35	○		クルーズ&リゾートウエディング	クルーズ旅行利用者は、年々増加しています。クルーズ旅行の魅力、特徴について学習します。またリゾートウエディングもコロナ禍を経て、利用者が増えている分野です。リゾートでの結婚式の特徴、提案方法などを学習します。クルーズ、リゾートウエディングに関わる業務は、ともに特別な知識と高いホスピタリティが必要です。ホテル、旅行分野にとっても関連することが多く、これらを学習することで知識の幅を広げます。	2・前	30				○		○		○		
36	○		ホスピタリティサービス演習	ホスピタリティとは、自分を知り、他者を知ったうえで、お互いの違いを認識しつつも認め合う心持ちです。価値観や考え方の違いを理解し、寄り添い歩み寄ろうとする気持ちと行動は、ホスピタリティを伝えるサービスの基本です。この授業では、様々なワークなどの実践を通してホスピタリティとは何かを深く考えます。また、相手の要望を引き出し、期待以上のサービスを実践すべく、より細やかなホスピタリティ・サービススキルの向上や、社会に出ても応用でき、柔軟かつパーソナルに対応できる「人間力」を養います。	2・前	30				○		○				○
37	○		セールスコミュニケーション演習	この授業では、主にセールストーク、プレゼンテーションについて学びます。旅行業界では、お客様に旅行を提案を行ったり、ツアー中に添乗員として、お客様の前で話をしたりと、多くの場面でプレゼンをする機会があります。人前で話をすることは、緊張もし、難しいことではありますが、繰り返し訓練することで、上手になります。また就職の採用面接の際にも役に立ちます。授業内では、さまざまな機会を発表をしてもらいます。	2・前	30				○		○		○		
38	○		地域コミュニティ活性化演習Ⅰ	市町村やDMO、スタートアップ企業様等の各スピーカーから、それぞれの地域活性化の取り組みや課題について聴講し、その後課題に対する対応策を考え提案します。	2・前	30				○		○		○		○
39	○		旅行販売実務Ⅰ	京都ホテル観光ブライダル専門学校が運営している「KYOKANトラベル」を活用し、主に募集型企画旅行を実際に企画し、販売します。旅行会社として本物の体験をすることにより、お客様対応、手配など気が付く点、学びがたくさんあります。実務経験を積むことで、マーケティング、対応力などを習得するとともに、学生自身の苦手分野を把握し、苦手を克服できるようにしていきます。	2・前	60				○		○		○		
40	○		海外観光地理	世界中には魅力的な観光地、都市、世界遺産などがあります。それらを学習することは、旅行業界で働く上で役に立ちます。また、一般教養として、世界の都市について知っておくことは、社会情勢などを把握するうえで役に立ちます。地図、テキスト等を使いながら、世界の観光地理について学習します。	2・前	30				○		○		○		
41	○		海外旅行ツアーコンダクター演習	1年次に国内旅程管理主任者取得に向けて、国内旅行の添乗員としての知識を習得しました。この授業では、海外旅行における添乗員の知識を習得します。海外旅行では、出入国の際のご案内、ホテルのチェックイン、ホテルの部屋タイプなど、多くの点で国内旅行と異なります。それらについて学ぶことで、添乗員としての知識の幅を増やします。	2・前	30				○		○				○
42	○		観光デジタルツール演習Ⅰ	この授業は、「旅行販売実務Ⅰ」で作成したコースをもとに広告を作成、各種旅行の書類の作成などを行う授業になります。また学校で運営しているSNSを活用し、記事の作成、写真、動画の編集を行い、魅力的な情報発信が出来るようになる技術を学習します。	2・前	30				○		○		○		
43	○		SDGs演習	SDGs学習ツールを使用し、就職したのちも仕事を通じて世界の様々な課題解決に向けて「自分事」として主体的に貢献できる知識や素養を身に付けます。	2・後	30				○		○		○		
44	○		トラベルライター演習	旅のトレンドや新たな観光地など旅行者に有益な情報を集めて記事にし、SNSを活用し情報を発信します。	2・後	30				○		○				○
45	○		ダイバーシティ&インクルージョン演習	労働力不足やグローバル化への対応、日本型雇用慣行の破綻、世代間格差などの問題に対する解決策として、ダイバーシティ経営が期待されている一方で、「とりえずダイバーシティ」の企業が多いことが課題である。様々な事例を知り考えることで、真の目的であるインクルーシブな組織に変えていくやり方を習得する。	2・後	30				○		○		○		○

46	○		観光デジタルツール演習Ⅱ	この授業は、「旅行販売実務Ⅱ」で作成したコースをもとに広告を作成、各種旅行の書類の作成などを行う授業になります。「観光デジタルツール演習Ⅰ」から引き続き、SNSの運用も行います。お客様からの反応も見ながら広告作成などの技術を高めます。	2・後	30				○		○		○				
47	○		旅行販売実務Ⅱ	「旅行販売実務Ⅰ」に続き、募集型企画旅行の手配、企画、運営を行います。またどのような商品が売れるのか、反対に売れないのかなど、様々な商品展開から、その要因を考えます。ただコースを作るだけでなく、顧客分析やマーケットの状況を把握することの重要性についても理解します。	2・後	60				○		○		○				
48	○		地域コミュニティ活性化演習Ⅱ	「地域コミュニティ活性化演習Ⅰ」で学習したことを活用し、実際に宮津市などが抱える課題に取り組み、現地への提案等を通じて地域の発展に努める。	2・後	30				○		○		○				○
49	○		観光マーケティングリサーチ	現代では、客観的な事実に基づき、行動、決定をする「統計的な思考能力」が求められています。様々な統計、データ、グラフを読み解く力を習得するとともに、それらを分析し、どのようなことが予測されるかなど統計活用能力を養います。	2・後	30				○		○		○				
50	○		国内旅行業務取扱管理者対策Ⅲ	国内旅行業務取扱管理者試験に合格できるように学習します。少人数での授業になりますので、個々の苦手科目を把握し、集中して対策します。	2・後	30				○				○		○		
51	○		国内旅行業務取扱管理者対策Ⅳ	国内旅行業務取扱管理者試験に合格できるように学習します。少人数での授業になりますので、個々の苦手科目を把握し、集中して対策します。	2・後	30				○				○		○		
52	○		実践演習Ⅰ	地方創生における町おこしやインバウンドツアーそして鉄道サービスに関する実務を学び、演習により理解を深めます。	2・前	30						○		○		○		
53	○		実践演習Ⅱ	留学生を対象にしたインバウンドツアーを計画し、実施します。日本人旅行者の旅に関するニーズの違いや目的を学びます。	2・後	30						○		○		○		
54	○		インターンシップ	旅行の事業所で専門的な業務や実際に行われる業務を体験することで、将来目指すべき職業を具体的にイメージし、憧れだけではなく正しい職業観を身に付けるとともに、社会人として必要な礼儀や振る舞いを身に付けることを目的とします。	2・前	60						○		○				○
合計						54	科目	1,710 単位（単位時間）										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 2年以上在学し、所定の課程を修め単位を修得した者		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 各科目ごとの試験の合格をもって履修したものとす		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。